

テーマ：2008年10-12月期GDP予測値の修正
 ～前期比年率▲13.3%と、過去最大の落ち込みに～

発表日：2009年2月9日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

2008年10-12月期の実質GDP成長率（2月16日公表予定）は前期比年率▲13.3%（前期比▲3.5%）を予測する。1974年1-3月期の前期比年率▲13.1%を越え、過去最大のマイナス幅になるだろう。当社は、1月30日の段階で前期比年率▲12.9%（前期比▲3.4%）を予想していたが、本日公表された国際収支統計の結果を受けて若干の下方修正を行った。

輸出を前期比▲13.9%と、1月30日段階の同▲13.4%から下方修正、輸入を同+0.9%と、従来予測の同+0.7%から上方修正した結果、外需寄与度は同▲2.4%ポイント（従来：同▲2.3%ポイント）と下方修正になった。また、2月3日公表された08年12月分の家計消費状況調査の結果を反映して個人消費についても再推計を行ったが、こちらは従来予測値の前期比▲1.1%から変更していない¹。

現時点での民間調査機関の予測値は前期比年率▲10～▲13%前後に集中しており、10-12月期の二桁マイナスは既にコンセンサスである。また、1-3月期についても、10-12月期に続いてかなり大きなマイナスになる可能性が高まっている。①生産予測指数からみて1-3月期の鉱工業生産が前期比▲20%以上のマイナスになると見込まれること、②1月上中旬の輸出金額が前年比▲46.1%となっており、1月の輸出は12月分（同▲35.0%）から一段と落ち込む可能性が強まっていることなども、1-3月期の実質GDPの大幅悪化を示唆している。08年度下期の国内景気は、かつてないほどの悪化となった可能性が高いだろう。当社では1月22日に、実質GDP成長率の予測値を2008年度：▲2.3%、2009年度：▲2.7%に下方修正しているが、さらに下方修正を行う必要があると考えている。

図表 2008年10-12月期GDP

	実質		名目	
	前期比	前期比年率	前期比	前期比年率
国内総生産(GDP)	▲ 3.5	▲ 13.3	▲ 2.4	▲ 9.3
内需寄与度	▲ 1.1	▲ 4.4	▲ 1.8	▲ 7.2
(うち民需)	▲ 1.2	▲ 4.6	▲ 1.7	▲ 6.8
(うち公需)	0.0	0.2	▲ 0.1	▲ 0.5
外需寄与度	▲ 2.4	▲ 9.2	▲ 0.6	▲ 2.3
民間最終消費支出	▲ 1.1	▲ 4.3	▲ 1.7	▲ 6.6
民間住宅	4.2	17.9	3.2	13.4
民間企業設備	▲ 5.5	▲ 20.3	▲ 6.3	▲ 22.9
民間在庫品増加(寄与度)	0.2	0.7	0.2	0.7
政府最終消費支出	0.3	1.2	▲ 0.2	▲ 1.6
公的固定資本形成	▲ 0.3	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 4.3
財貨・サービスの輸出	▲ 13.9	▲ 45.0	▲ 21.9	▲ 62.8
財貨・サービスの輸入	0.9	3.6	▲ 18.5	▲ 55.9

GDPデフレーター(前年比)	0.2
国内需要デフレーター(前年比)	0.5

¹ 需要項目ごとの予測値の詳細はEconomic Indicators「2008年10-12月期GDP予測」（1月30日発行）をご参照ください。